

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-4

< 第25週 > 咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 - 定点当たり報告数は過去10年間の当該週と比較して最高値を示している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.5-7

< 先天性風しん症候群 > 妊婦の風しん罹患を防いでCRSの発生を防ぐためには、社会全体で風しんの流行そのものを確実に抑制しなければならない
< 咽頭結膜熱 > プールに入る前にはシャワーなどでおしりをよく洗い、また、出たあとには目をよく洗うことを忘れないよう、日常から心がけることが必要である



病原体情報
P.8-9

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2002~2004年 / 咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス 2004年 / ヘルパンギーナ患者から分離されているウイルス / 2004年



速報
P.10-13

2004年4~5月に認められたノロウイルスによる胃腸炎の集団発生事例 - 大阪市 / 小学校におけるノロウイルスの集団発生事例 - 島根県 / 栃木県における風しんの流行状況とその対策



海外感染症情報
P.14-15

スーダンでのエボラ出血熱流行 - 更新 / アメリカ大陸における森林型黄熱の現状



感染症の話
P.16-18

< 広東住血線虫症 >
広東住血線虫に起因する疾病で、2000年6月にはわが国初めての死亡例が沖縄で発生した



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(25週)
P.19-25



25週のデータ
P.26-35



発生動向総覧

*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)。

< 第25週コメント > 6月24日集計分

全数報告の感染症

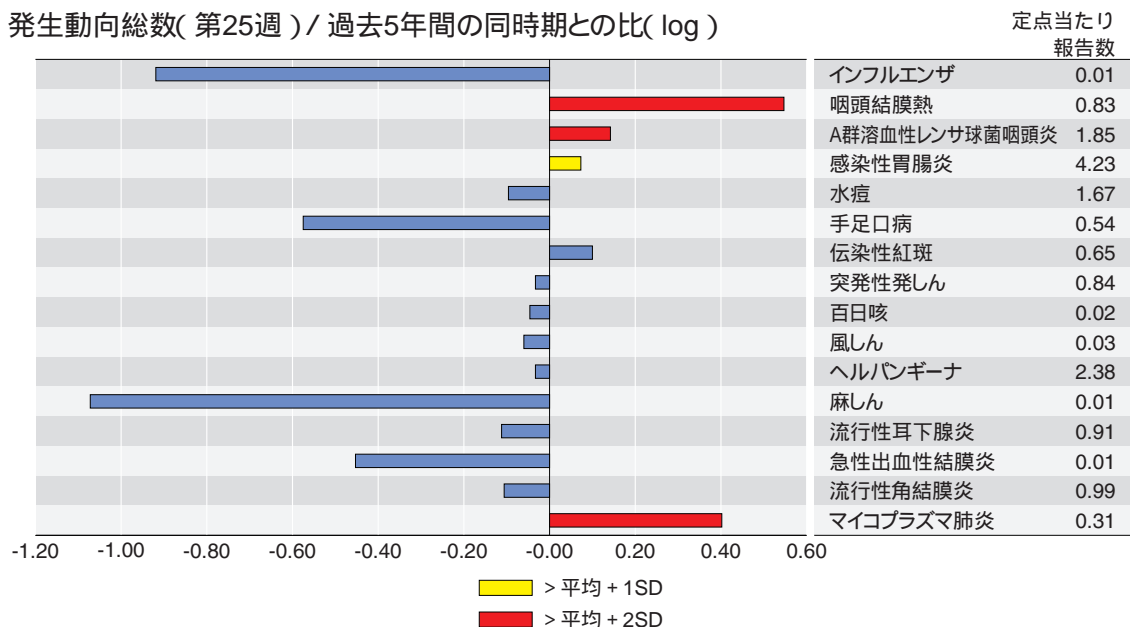
注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が、集計の期日以降に届くこともあります。それらについては、発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

- 1類感染症: 報告なし
 - 2類感染症: コレラ 3例(推定感染地域: インド1例、インド/中国1例、フィリピン1例)
細菌性赤痢 12例(推定感染地域: 中国7例、インドネシア3例、ベトナム1例、
疑似症1例)
パラチフス 1例(推定感染地域: インド/タイ)
 - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 73例(うち有症者47例)
報告の多い都道府県: 東京都(9例)、埼玉県(6例)、大阪府(6例)、奈良県
(6例)
血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(34例)、O26 VT1(13例)、O157 VT2
(12例)、その他(14例)
年齢: 10歳未満(26例)、10代(9例)、20代(6例)、30代(7例)、40代(6例)、
50代(11例)、60代(4例)、70歳以上(4例)
 - 4類感染症: Q熱 1例(推定感染源: 不明)
つつが虫病 3例(青森県(1)、秋田県(2))
日本紅斑熱 1例(鹿児島県)
レジオネラ症 3例(55歳*、73歳、82歳) *死亡
E型肝炎 1例(推定感染地域: 国内)
A型肝炎 1例(推定感染地域: 国内)
 - 5類感染症: アメーバ赤痢 11例(推定感染地域: 国内5例、シンガポール1例、台湾1例、
不明4例、推定感染経路: 経口感染2例、性的接触4例、
不明5例)
ウイルス性肝炎 5例(いずれもB型__推定感染経路: 性的接触3例、不明2
例)
クロイツフェルト・ヤコブ病 2例(とともに孤発性)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例(70歳)
後天性免疫不全症候群 10例(いずれも無症候)
推定感染経路: いずれも性的接触(異性間2例、同性間8例)
推定感染地域: 国内9例、不明1例
ジアルジア症 1例(推定感染地域: 国内)
梅毒 1例(無症候)
破傷風 2例(66歳、73歳)
急性脳炎 1例(病原体不明、0歳)
- (補)他に、梅毒1例の報告があったが削除予定。また、報告遅れとして先天性風しん症候群1例、梅毒(先天梅毒)1例、急性脳炎1例(病原体不明、3歳)の報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第25週) / 過去5年間の同時期との比(log)



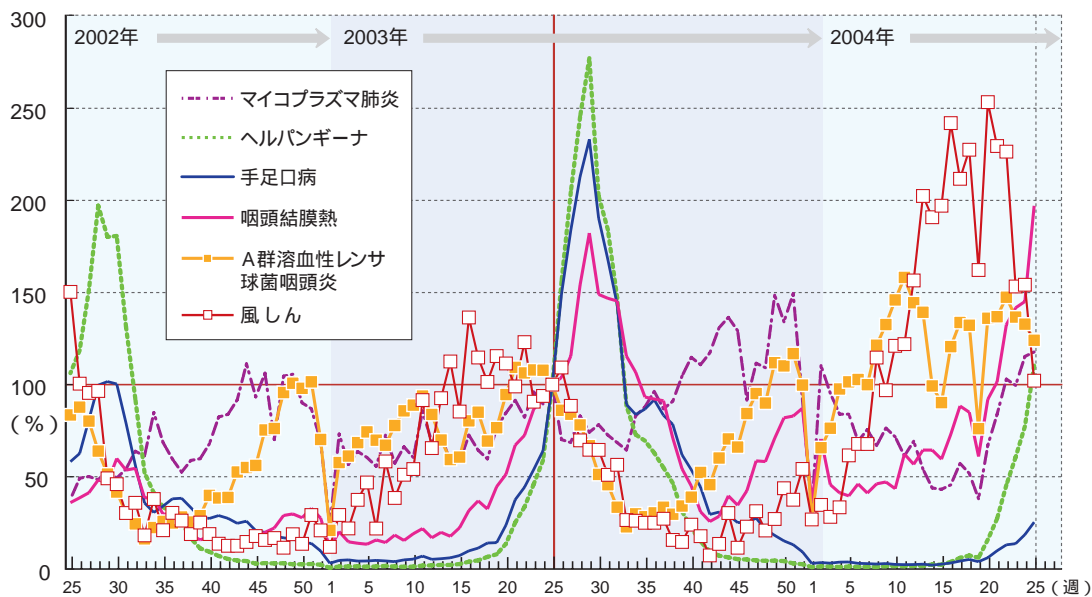
当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

小児科定点報告疾患：咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第11週から増加傾向が認められているが、第25週は大きく増加して、過去10年間の全ての週と比較して最高値となっている。都道府県別では富山県(2.1)、宮崎県(1.8)、島根県(1.7)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第11週に過去10年間で最高値を示した後、減少した。その後、第16週から再び増加傾向が認められたが、第23週から減少している。しかし、第19週を除き、第7週から継続して過去10年間の当該週と比較して最高値を示している。都道府県別では、愛媛県(4.0)、山形県(3.8)、新潟県(3.7)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第12週から減少傾向が続いており、第25週も微減した。しかし、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多く、都道府県別では福井県(9.1)、鳥取県(9.0)が多い。手足口病の定点当たり報告数は第20週から緩やかに増加しており、都道府県別では兵庫県(2.6)、沖縄県(2.4)が多い。風しんの定点当たり報告数は減少したが、都道府県別では群馬県(0.2)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第20週から増加が続いており、都道府県別では三重県(6.7)、福井県(6.5)、愛媛県(6.1)が多い。麻しんの定点当たり報告数は微減したが、都道府県別では徳島県(0.2)が多い。RSウイルス感染症はゼロ報告を含めて28都道府県から報告がなされ、報告数は合計17例であった。

眼科定点報告疾患：流行性角結膜炎の定点当たり報告数は第3週からほぼ横ばいで推移しているが、都道府県別では引き続き沖縄県(10.4)が非常に多い。

基幹定点報告疾患：マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は第20週から増加傾向が認められており、第22週からは過去5年間の当該週と比較して最高値を示している。都道府県別では福島県(1.6)、茨城県(1.4)が多い。

図 . 主要疾患の過去2年間の週別定点当たり報告数の動き(第25週)



2003年第25週の定点当たり報告数を100%として各週の報告数値を換算し、主要疾患の過去2年間の増減を表している。



注目すべき感染症

先天性風しん症候群

先天性風しん症候群(CRS)は、妊婦が妊娠前半期に感染することによって出生児に起きる疾患で、感音性難聴、白内障または緑内障、心疾患を3主徴とする。感染しても必ずしもCRSが起こるわけではなく、母親が顕性感染した場合の妊娠月別の発生頻度は、妊娠1カ月50%以上、2カ月35%、3カ月18%、4カ月8%程度である。

CRSは1999年4月の感染症法の施行により全数把握疾患となったが、1999年には報告がなく、2000～2003年には各1例であった。しかし、本年では第25週に新たに報告があり、合計5例となった(表)。

表. 先天性風しん症候群の報告

報告年	都道府県	性別	母の予防接種歴
2000	大阪	女	なし
2001	宮崎	女	不明
2002	岡山	男	不明
2003	広島	女	なし
2004	岡山	女	不明
	東京	女	不明
	岡山	女	あり
	東京	男	なし
	東京	女	なし

CRSを防ぐため、風しんの罹患歴や予防接種歴がない妊娠可能年齢の女性は、妊娠する以前に予防接種を受けておくことが重要である。予防接種は、風しんとCRSを予防するための最大の手段と言える。しかし、これまでに報告された9例の母親の予防接種歴をみると、「なし」が4名、「不明」が4名で、「あり」が1名みられた。このように、稀には罹患歴や予防接種歴がある場合でも十分な免疫が獲得されていないこともあるので、場合により、妊娠前に抗体検査を行うことも必要と考える。

本年第25週までに、全国約3,000カ所の小児科定点医療機関から報告された風しん患者を年齢群別にみると、20歳以上は約13%を占め、その男/女比は1.3/1である。また、2001年度の感染症流行予測調査事業の結果の解析によると、全国の20～39歳における風しんの感受性者(風しんに対する免疫を持っていない者)は女性で70万人、男性では450万人と推計される。これまでにCRSとして報告された9例の母親の妊娠期間中の風しん罹患については、「あり」が6例、「不明」が1例で、「なし」が2例であった。風しんでは、感染しても症状を示さない場合(不顕性感染)が30～40%程度あると言われている。

これらのことから、妊婦の風しん罹患を防いでCRSの発生を防ぐためには、社会全体で風しんの流行そのものを確実に抑制しなければならない。そのためには、定期接種の対象者だけでなく、小児から成人まで、男女ともに免疫のない人々は任意接種を受けることが強く望まれる。

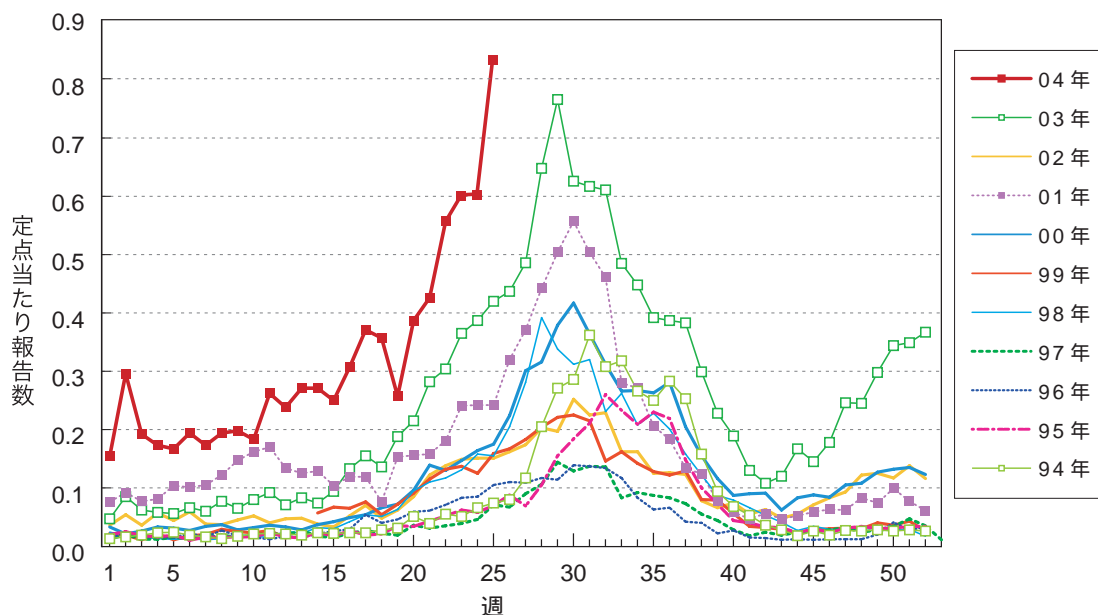
さらに、小児科ばかりでなく、特に妊婦や妊娠年齢の女性の管理を行う産科や婦人科、また発症時に診療する内科、皮膚科などにおいては、地域での風しんの流行状況などに細心の注意を払う必要がある。

厚生労働省では、先天性風しん症候群および風しん対策を早急に促進するため、6月23日、緊急に「風疹流行にともなう母児感染の予防対策構築に関する研究」班を立ち上げた。

咽頭結膜熱

咽頭結膜熱の発生動向は、感染症法に基づき、全国約3,000力所の小児科定点医療機関(1999年4月の感染症法施行以前は、全国約2,400力所の小児科定点医療機関)から毎週報告される患者数により把握されている。本年の定点当たり報告数は、過去10年間の中でも最も多かった昨年と比較しても、さらに多い状態で推移している。第25週では、過去10年間の全ての週と比較して最高値となった(図)。第25週に報告の多かった都道府県は、富山県(2.1)、宮崎県(1.8)、島根県(1.7)、石川県(1.6)で、本年の累積定点当たり報告数が多いのは、宮崎県(28.4)、富山県(20.6)、福井県(19.0)である。

図. 咽頭結膜熱の過去10年間の週別発生状況(2004年第25週)



本疾患はアデノウイルスによる感染症で、発熱、咽頭炎、眼症状を主とする。プールでの感染もみられることからプール熱とも呼ばれる。夏季に流行する疾患であるが、2000年以降には、それ以前にはなかった冬季の増加傾向が見られ、昨年から本年にかけて、その傾向が顕著であった。好発年齢は従来から学童年齢が主とされるが、感染症発生動向調査による本年25週までの累積報告患者を年齢群別にみると、1～5歳の各年齢がそれぞれ13～16%で、5歳以下が全体の約80%を占めている。

感染経路は通常飛沫感染であるが、プールでは結膜からの感染や経口的な感染も考えられている。症状としては、5～7日の潜伏期の後に、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜充血、眼痛、羞明、流涙、眼脂などの症状があり、それらが3～5日間程度持続する。基本的には予後の良い良性の疾患であり、脱水を防ぐなどの保存的な治療が中心となる。

過去10年間、報告のピークは第28～32週であったので、本年も今後さらに増加すると考えられ、注意が必要である。前述のようにプールを介しての流行もあることから、プールの水の適切な消毒が大切である。症状がある時にはプールに入らないことはもちろんであるが、症状が消失したあとも長期間糞便中にアデノウイルスが検出されることもある。プールに入る前にはシャワーなどでおしりをよく洗い、また、出たあとには目をよく洗うことを忘れないよう、日常から心がける必要がある。

なお、6月15日、厚生労働省では、咽頭結膜熱(プール熱)の増加について、ホームページや自治体などを通じて注意を喚起した。また、文部科学省とも連携し、特に児童、生徒に対し注意喚起をお願いするとともに、プール管理者などについても注意を呼びかけた。



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

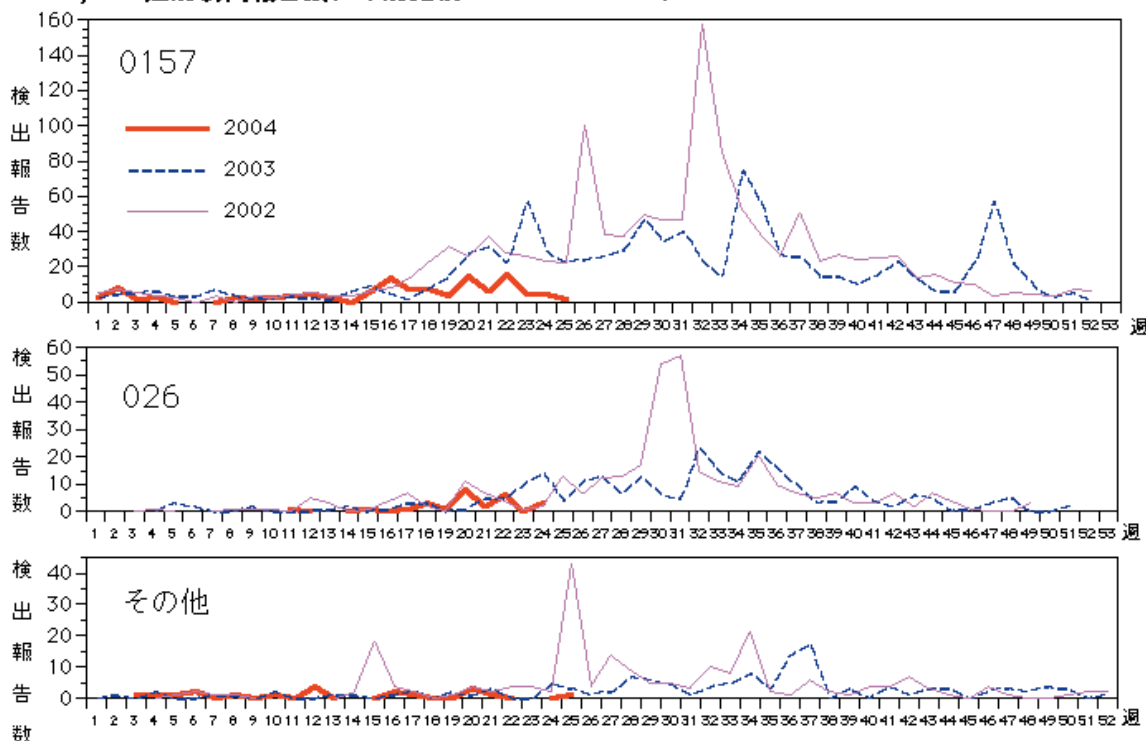
(2004年6月25日現在報告分)

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2002～2004年

2003年の報告総数(カッコ内は2002年の報告数)は1,327件(1,797件)で、血清型別ではO157が938件(1,231件)、O26が258件(330件)であった。2003年はO157が第18週頃より増加し、第23週、第29週、第34週、第47週に小さなピークが認められた。O26は第21週頃より増加し、第32週、第35週に小さなピークを示した。O157、O26のピークは、ともに前年(2002年)のピーク時の報告数を大きく下回っている(IASR Vol.25 No.6特集参照)。

本年(2004年)の検出総数は155件で、うちO157が110件、O26が26件、その他の血清型が19件報告されている。O157は第16週に集団発生事例からの検出報告によりいったん増加し、その後第20週から増加傾向にある。第23週(5/31～)以降では、O157が第23週に福岡県から4件(VT2が3、VT1&2が1)、第24週に三重県から2件(いずれもVT1&2)、宮城県から1件(VT2)、徳島県から1件(VT2)、第25週に福岡県から1件(VT1&2)、O26が第24週に宮城県から2件(いずれもVT1&2)、富山県から1件(VT1)、OUTが第25週に福岡県から1件(VT1&2)報告されている。

O157,O26週別検出報告数、年別比較 2002～2004年 (病原微生物検出情報: 2004年6月25日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を圖に示した。



咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス 2004年

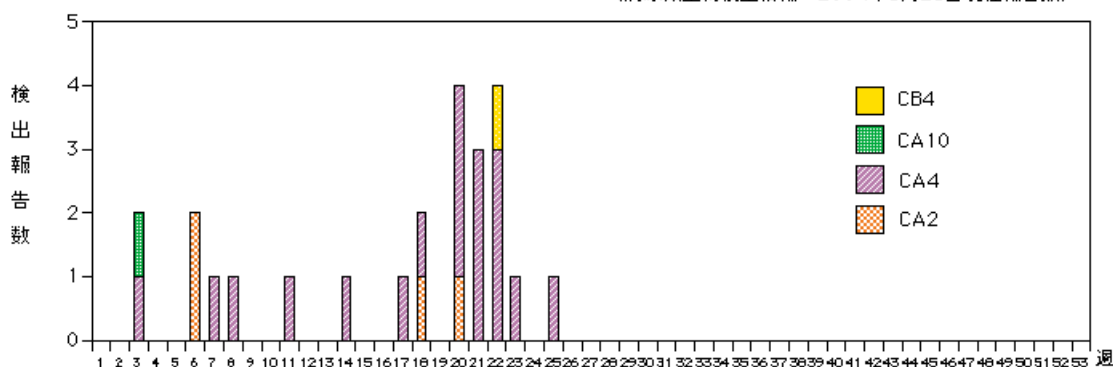
これまでに計97件のアデノウイルスが報告されており、そのほとんどは咽頭ぬぐい液から分離されている。年初よりアデノウイルス3型(Ad3)の報告が目立ち、Ad3は18都道府県から59件(広島県11、宮城県7、兵庫県7、千葉県4、埼玉県、東京都、長野県、愛知県、奈良県、島根県各3など)が報告されている。次いでAd2が9県から18件(宮城県、静岡県、高知県各3、愛知県、兵庫県、広島県各2、長野県、島根県、福岡県各1)、Ad1が4県から8件(広島県4、島根県2、宮城県、長野県各1)、Ad5が4県から7件(長野県4、大阪府、広島県、福岡県各1)、Ad4が3件(宮城県、愛知県、大阪府各1)、Ad6が2件(広島県、福岡県各1)報告されている。

ヘルパンギーナ患者から分離されているウイルス 2004年

本年(2004年)は、年初よりA群コクサッキーウイルス(CA)4型が報告されており、第20週から増加して、これまでのところ計18件(島根県4、広島県、愛媛県各3、奈良県2、高知県、福岡県、新潟県、京都府、山形県、東京都各1)が報告されている。次いでCA2が4件(愛媛県、福岡県、島根県、熊本県各1)、B群コクサッキーウイルス(CB)4型が1件(徳島県)で、昨年最も報告の多かったCA10は第3週に高知県から1件報告されているのみである。その他にエコーウイルス(E)7型が1件(山形県)報告されている。

週別ヘルパンギーナ患者からの主なコクサッキーウイルス分離報告数、2004年

(病原微生物検出情報：2004年6月25日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を圖に示した。





2004年4～5月に認められたノロウイルスによる胃腸炎の集団発生事例 - 大阪市

2004年4～5月に大阪市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校において相次いで発生したノロウイルス(NV)による胃腸炎の集団発生事例について報告する。

はじめに、4月下旬頃に大阪市東淀川区内のA幼稚園、および鶴見区内のB小学校において集団発生が認められた。その後、5月中旬に天王寺区内のC中学校、5月下旬に住吉区内のD幼稚園と相次いで集団発生が認められた。いずれの事例でも、患者の主症状は嘔吐、下痢であった。

4事例について食中毒菌およびNVの検査を行ったところ、原因と考えられる食中毒菌は検出されなかったが、KageyamaらのリアルタイムPCR法(J. Clin. Microbiol. 41, 1548-57, 2003)を用いたNVの検査では、すべての事例の患者からgenogroup II(GII)NVが検出された。さらに、各事例からNV陽性5検体ずつについて、KojimaらのSKプライマー(J. Virol. Methods 100, 107-14, 2002)を用いてCapsid N/S領域を増幅した。増幅されたNV遺伝子についてはダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定し、Katayamaらの方法(Virol-ogy 299, 225-39, 2002)に基づいて遺伝子型別を行った。遺伝子型番号はGreen5(Fields Virology, 4th ed., 841-74, 2001)および片山ら(IDWR 6, 14-9, 2004)に従った。その結果、今回型別したすべてのNV株は、Melksham/1994/UK(GenBank accession No. X81879)と塩基配列で98.0%～99.0%、推定アミノ酸配列で99.0%～100%の相同性があり、GII/2(Melksham/Snow Mountain)型に分類された。同じ事例内の株間では塩基配列で99.7%～100%の相同性があり、推定アミノ酸配列は100%一致した。4事例間では塩基配列の相同性が98.7%～99.7%あり、推定アミノ酸配列の相同性は99.0%～100%であった。すべての事例から、同じ遺伝子型で非常に近縁なNVが検出されたが、4施設は地理的に隣接しておらず、関連性は認められなかった。また、D幼稚園の事例において患者1名から検出されたgenogroup I(GI)NVは、本事例とは関係なく、散発的な発生であると考えられた。

これらの4事例は、患者の喫食調査などの疫学情報と検査結果から食中毒ではないと判断され、人から人へ感染が広がった事例であると考えられた。各事例においては感染拡大防止のため、大阪市保健所および当該地区保健福祉センター合同で施設内の消毒、本疾病が疑われる患者の吐物や糞便の適切な処理、手洗いの励行などの衛生指導を行った。その後、それぞれの施設における感染は終息した。4～5月の大きなNV流行は稀であるが、この時期にはNVによる感染性胃腸炎の流行が大阪市のみならず、全国的にも認められていた。大阪市保健所は学校、各種施設、医師会などに文書の配付を行うとともに、新聞、大阪市ホームページなどで、NVの流行や感染予防に関して広く市民に注意を呼びかけた。

最後に、本事例に関して疫学などの情報収集に協力していただいた健康福祉局生活衛生課、保健所、および関係保健福祉センター各位に深謝いたします。

大阪市立環境科学研究所

入谷展弘 改田 厚 阿部仁一郎 小笠原 準 久保英幸
村上 司 吉田英樹 石井 崇次

(IASR 2004年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

小学校におけるノロウイルスの集団発生事例 - 島根県

県西部のA小学校で5月下旬に、ノロウイルスを原因とする集団胃腸炎が発生したので、その概要を報告する。

2004年5月22日、保健所管内の複数の医療機関から、A小学校(児童数103名)の児童約15名が嘔吐・下痢の症状で受診しているとの連絡があった。保健所が調査した結果、21、22日に2年生を中心に、教職員を含む24名が同様の症状を呈していた。A小学校の給食は共同調理方式で、A小学校のほか3つの小学校と1中学校に配送しているが、他校では胃腸炎症状を呈している者は通常値(発症率0～2.8%)であった。水道水は町の簡易水道を直結(受水槽なし)で使用している。

21、22日の発症者13名の糞便の細菌検査はすべて陰性であった。一方、13名中7名について、RT-PCR法によるノロウイルスの検出をおこなったところ、7名全員がプライマーG2SKF/Rおよび36/35陽性となった(genogroup II)。さらに、増幅産物のダイレクトシークエンシングをおこなった結果、検出されたウイルスはMelksham類似株であった。原因物質が特定されたことを受けて、保健所は近隣の小中学校を含めて、感染予防についての連絡会を開催し、手洗いの徹底、校内のトイレの消毒などを指導するとともに、保護者に対して、ノロウイルスに関する情報提供と予防方法の周知を行った。

本事例では発症者の状況から、5月19～20日に校内でウイルスに曝露されたものと推察されたが、感染経路は特定できなかった。そして、事例発生前の18日と20日に胃腸炎症状を呈した者が認められたが、微生物学的検査が実施されておらず、因果関係は不明である。なお、同時期に県西部で発生した他事例からも、本事例とほぼ同じ塩基配列のMelksham類似株が検出されており、当時の地域流行株であったものと推察される。

島根県保健環境科学研究所
飯塚節子 田原研司

(IASR 2004年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

栃木県における風しんの流行状況とその対策

栃木県における風しんの流行については、感染症発生動向調査によると、平成16年第9週報(2月23日 ~ 2月29日)から報告件数の増加がみられ、第12週報(3月15日 ~ 3月21日)の報告では、県北地区3件(定点当たり0.33)、既に流行している群馬県と隣接する安足地区2件(定点当たり0.29)、県南地区2件(定点当たり0.2件)になり、注意を要する状況になった。

その後、第20週報(5月10日 ~ 5月16日)には県北地区12件(定点当たり1.33)の報告があり、県内全域の定点当たり報告数も全国1位になるなど、全国的にみても本県が高い水準で推移している状況となった。

このような状況の下で、県として本年3月以来、以下のような対応を行ってきた。

1 相談窓口の設置

健康増進課及び各広域健康福祉センターに風しんの相談窓口を設置し、県民の不安解消や予防接種等の相談に応じている。

2 各種啓発活動の強化

流行の初期段階(平成16年3月下旬)に、「群馬県内で流行している風疹の発生状況等について」を各広域健康福祉センターに通知し、発生状況の把握、関係機関への情報提供、注意喚起等を行った。

県ホームページに、風しんの流行に関する情報と注意喚起を掲載した。

4月9日付け厚生労働省からの「先天性風しん症候群の発生防止について」通知を受け、「栃木県における風しんの流行状況とその対策」をまとめ、各広域健康福祉センター、関係団体等へ通知した。

県医師会と連携協力し、風しんの予防接種を喚起するためのポスター(県医師会作成)やチラシを産婦人科医や市町村へ配布した。

栃木県結核・感染症サーベイランス委員会における県内の発生状況の解析を基に、その結果を新聞社、放送局等に提供しメディアを通じて情報提供と注意喚起を行った。

3 担当者会議の開催

第20週報(5月10日 ~ 5月16日)の報告数急増を受け、5月25日に健康福祉センター、保健環境センター等の担当者会議を開催し、各地区の状況について情報交換を行うとともに、市町村、学校関係等への情報提供及び注意喚起の強化を指示した。

4 流行地域を管轄する保健所(健康福祉センター)の対応

安足健康福祉センターでは、教育委員会を通じて学校関係等に注意喚起を促す文書を送付した。

県北健康福祉センターでは、流行地域の市町村及び教育委員会等を通じて、感染予防の周知徹底を依頼の上、小中学校、幼稚園、保育所の児童等の欠席情報の把握、調査、分析に努めるとともに、予防接種の必要性の啓発を行っている。

今後は、県として、市町村主任保健師及び健康福祉センター保健指導主任者合同会議(7月7日予定)において、風しんの流行状況と対策について情報提供と、児童の予防接種状況の確認や職員・保護者等への注意喚起についての指導を行うとともに、流行地区において関係者を集めて風しん関係者会議を開催するなど、関係機関・団体と連携して引き続き適切な情報提供と予防接種の重要性を啓発する活動等を積極的に行っていく予定である。

栃木県保健福祉部健康増進課



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

スーダンでのエボラ出血熱流行 - 更新

WHO/CSR 2004年6月22日 更新7

2004年6月20日現在、Yambio郡保健当局と今回の流行に関して郡当局を支援している専門家チームは、臨床症状、疫学および検査結果の観点から、エボラ出血熱患者数を再評価している。再分類の結果、現在、エボラ出血熱患者18名と死亡者6名が報告されている。

米国CDCにあるWHO協力センターからの最新の診断検査結果を受けて、報告された患者30名中12名が麻疹患者と分類された。麻疹患者は現地で発生が続いており、WHO南部スーダン早期警戒対応ネットワーク(EWARN)には2004年3月第2週に初めて報告されたが、エボラ出血熱に対するアクティブサーベイランスシステムが確立されたことで、今回の患者数の増加につながった。

アクティブサーベイランスと接触者の経過観察は現在も継続されている。

アメリカ大陸における森林型黄熱の現状

PAHO/EID Vol. 2, No. 21 2004年6月24日

2004年6月23日までに、コロンビア、ペルー、ブラジル、およびボリビアの各国保健省はWHOアメリカ地域事務局(PAHO)に対し、森林型黄熱による死亡者41名を含む確定患者86名の発生を報告した。それらの国々すべてにおいて、患者は主に農村地で働く年齢15歳以上の男性から発生している。疫学週(EW) および国ごとの患者発生分布は、以下のウェブサイト上で参照可能である:

<<http://www.paho.org/English/AD/DPC/CD/eid-eer-24-jun-2004.htm#jyf>>

ペルー:

ペルーでは患者52名が報告された。致死率は52%であった。患者は以下の地域から報告されている。

Cuzco県: Echerate地域(1名)

Huánuco県: Cholón(1), Daniel Alomia Robles(1), Huánuco(1), José Crespo y Castillo(5)

Junín県: Junín(1), Perené(4), Pichanaqui(17)

Loreto県: Ramón Castilla(1)

Madre de Dios県: Hupéhu(5), Laberinto(1), Manú(1)

San Martín県: Campanilla(7), La Banda de Shiclayo(1), Moyobamba(3), Nueva Cajamarca(2)

その他に、疑い患者31名を疫学的におよび臨床検査的に調査中である。

ボリビア:

ボリビアでは、以下の地域から患者9名が報告された。

La Paz県Palo Alto市(2名);

Santa Cruz県: San Ignacio de Velasco(6), Yapacani(1)

致命率は40%であった。その他、La Paz県とCochabamba県出身の疑い患者3名が診断検査の結果待ちとなっている。

ブラジル:

ブラジルから報告された患者3名の感染推定場所は、Pará州Parauapebas市(2名)とAmazonas州Iranduba(1)である。ブラジルからの報告患者は、それぞれ3月20日と27日までの疫学(EW)第11週と12週に発生している。

コロンビア:

コロンビアは22名の患者を報告しており、致命率は36%である。これらの患者は2003年にNorte de Santander県に端を發し、後に北方はCesar県、la Guajira県、Magdalena県、そして引き続き南方はMeta県へ感染拡大した広域流行の継続的な発生である。最後の確定患者の初発症状の発症は、2月28日までのEW8週である。

勧告:

チリの大陸部分を除いて、この地域の全ての国々にわたるネッタインシマカの広範囲な生息を考慮すると、今回の流行の発生は、黄熱が再び都市型となるリスクを増大させている。PAHO予防接種技術諮問グループ(TAG)は、これら諸国に対して、アメリカ諸国の黄熱動物間流行地域に居住する住民全員に、また、これらの地域を訪れる海外からの渡航者に予防接種を実施し、小児に対して黄熱ワクチンを定期接種に導入するよう勧告している。同様に強く推奨されることとして、ネッタインシマカに対するPAHO制圧勧告に基づき、駆除対策を実施することがある。

少なくとも1例のヒト患者や動物症例(死亡したサル)が確定されることで、黄熱感染拡大が証明されれば、症例が発生した自治体や近隣の地域で流行制圧対策を開始するのに十分な根拠となる。これらの対策とは、公衆衛生上の警告の発令に加えて、黄熱ワクチンの接種歴の証明がない全地域住民でのワクチン接種、この地域への渡航者全員の予防接種、疑い患者の能動的監視、(ヒトでの)発熱性黄疸性症候群と動物間流行の双方の監視の実施である。この地域の他の自治体で新規患者が特定された場合、他の流行対策に加え、ワクチン集団接種の対象域を拡大すべきである。



感染症の話

広東住血線虫症

広東住血線虫(*Angiostrongylus cantonensis*)に起因する疾病で、好酸球性髄膜脳炎、あるいは好酸球性髄膜炎を惹起し、髄液の好酸球増多が特徴である。眼型もある。本虫は東南アジア、太平洋諸島を初めとしてほぼ全世界に分布しているが、ヨーロッパ、南米からは未だ報告がない。本邦では沖縄に症例が多いが、本土における症例も増加しつつある。感染は第3期感染幼虫の経口摂取による。

疫学

広東住血線虫は極東、東南アジア諸国、オーストラリア、太平洋諸島、アフリカ、インド、インド洋の島々、カリブ海の島々、北米などに広く分布しており、主として、感染ネズミが積み荷などとともに船舶によって運ばれることにより、分布が拡大する。世界的には1992年の時点までに、およそ2,500例の症例が報告されている¹⁾。従来、特に症例の多い地域は台湾、タイ、ポナペ、ニューカレドニア、タヒチなどである。

わが国では沖縄県、奄美大島を含む南西諸島、鹿児島県、福岡県、広島県、愛知県、静岡県、神奈川県、小笠原父島を含む東京都、北海道など、各地で捕獲されたドブネズミやクマネズミに自然感染が認められており、アフリカマイマイ、スクミリンゴガイなどの貝や数種のナメクジから第3期感染幼虫(L3)が検出された地域もある。本邦における人体症例はこれまでに少なくとも54例(2003年8月現在)があり、沖縄県での感染例がおよそ61%を占め、眼型は2例、髄液から虫体が検出された症例が2例ある。これらを詳しくみると、沖縄県が少なくとも33例、本土が21例であり、この21例のうち15例、すなわち、静岡6、神奈川、鹿児島各2例、島根、徳島、高知、東京、大阪各1例は本土内感染と考えられる。一方、本土の残りの6例のうち、北海道、東京、福岡、京都の4例は沖縄における感染と考えられ(後2例は後述)、他に、台湾とインドネシアで感染した症例が各1例ずつある。

感染源については、アフリカマイマイに起因すると考えられるもの15例(沖縄14例、インドネシア1例)、アジアヒキガエルに起因するもの2例(沖縄2例)、ナメクジが感染源と考えられるもの7例(沖縄、静岡各3例、鹿児島1例)であり、残りは感染源不明である。

特記すべきこととして、沖縄において2000年1月から3月にかけての短期間に8例(20歳から62歳、男3名、女5名)の発生が認められており²⁾、同年6月には沖縄で、わが国初めての死亡例が発生した(服部ら³⁾より引用)。最近5年半(1998年～2003年)の発生動向を見ると、2000年に沖縄で発生した症例だけでも9例とされており、合わせて14例の発症例がある。これらは全て沖縄で感染したものと推定されている。発症地が沖縄以外のものとしては、沖縄へ旅行後に発症した京都の13歳男の症例、ならびに沖縄に帰省後に発症した福岡の20歳女の症例の2例がある。いずれも感染源の特定はできていないが、京都の症例では、旅行中に食べた生野菜が原因ではないかと考えられている。

病原体

広東住血線虫 *Angiostrongylus* (syn. *Parastrongylus*) *cantonensis* (Chen, 1935) は擬円形線虫上科 (Metastrongyloidea) に属する線虫で、雄が長さ20～25mm、雌が22～34mmである。雌は吸血により、褐色を呈した消化管を取り巻いて白色の生殖器が捻転しながら走行するため、一見“床屋の看板状”に見える。雄の交接刺は長く、1.2mmである。成虫は *Rattus* 属、*Melomys* 属、*Bandicota* 属のネズミの肺動脈に寄生するが、最も重要な終宿主はドブネズミ (*Rattus norvegicus*) である⁴⁾。

ネズミの肺動脈に寄生している雌成虫が産卵すると、虫卵は肺の毛細血管に栓塞する。発育孵化した第1期幼虫 (L1) は肺胞と気道を通って消化管に移行し、糞便中に現れる。この幼虫は陸棲貝、ナメクジなどの中間宿主に経口または経皮的に侵入し、2回脱皮して、およそ2～3週間でL3となる。疫学的に重要な中間宿主はアフリカマイマイ (*Achatina fulica*) やナメクジであるが、食用に供されるスクミリンゴガイ (*Ampullarius canaliculatus*) にも自然感染が認められている。L3が待機宿主であるプラナリア、淡水産のテナガエビ、陸棲のカニ、ヒキガエルなどに摂取されると、これらの体内で長期間とどまり、感染源となる。最近、沖縄ではチャコウラナメクジの類似種とニューギニアヤリガタリクズムシからL3が高率に検出されている⁵⁾。

ネズミが中間宿主や待機宿主を摂取すると、L3は胃や小腸で脱鞘し、感染後2～3日の間に血行性に、あるいは筋肉から末梢神経に沿って中枢神経系に達する⁶⁾。この幼虫は脳内を移行しながら2回脱皮して第5期幼虫となり、さらに発育して幼若成虫となっても膜下腔に出る。幼若成虫は感染後26～29日に頭蓋や脊柱管から出る静脈に侵入して心臓に達し、結局肺動脈で成熟する。L1がネズミの糞便に現れるのは感染後40～42日である⁴⁾。非固有宿主であるヒトや家畜が感染すると、虫体は同様な体内移行を行い、幼若成虫にまで発育するが、早晚脳内で死滅する。しかし、非固有宿主ではこの中枢神経系内寄生期に、好酸球性髄膜脳炎を発症する。

臨床症状

2～35日 (平均16日) の潜伏期の後発症し、患者は微熱から中等度の発熱、激しい頭痛、Brudzinski徴候、項部硬直、悪心、嘔吐、Kernig徴候、脳神経麻痺などを示し、さらに筋力の著しい低下、知覚異常、四肢の疼痛などを示すこともある。その他、複視、運動失調などを示す場合があり、感染虫体数が多い重篤例では昏睡に陥ったり、死亡する場合もある。本症の典型例では症状が2～4週間続くが、自然に緩解・治癒し、通常予後はよい。まれに失明、知能遅延、てんかんなどの後遺症を遺すことがある。また、極めてまれではあるが、ヒトの肺動脈から虫体が検出されることもある。眼型の広東住血線虫症では虫体が前眼房や網膜などに発見され、髄膜炎症状を示さず、髄液の好酸球増多を認めない場合もある⁴⁾。

検査所見としては好酸球増多が特徴で、通常、末梢血好酸球増多を示し、髄液中の細胞のうち、好酸球が15～95%を占める。髄液の蛋白は増加するが、糖は正常である。まれに、穿刺した髄液中に幼若虫体が見つかる場合があり、この場合は虫体の形態学的検査により診断が確定できる⁴⁾。脳のCTでは脳室とくも膜下腔の拡大、脳浮腫、水頭症、髄膜炎の所見が、またMRIでは、脳浮腫と梗塞、血管炎や髄膜炎所見が認められるが、異常所見を全く認めない場合もある。

病原診断

虫体抗原を用いた血清診断法として、ELISA(inhibition ELISAを併用) dot-ELISA、ゲル内沈降反応、免疫電気泳動法、Western blot法(29kDaと31kDa抗原の特異的認識)などが行われており、血清や髄液中での抗体の検出を行う。好酸球性髄膜脳炎を示す寄生虫疾患で類症鑑別の必要なものは、有棘顎口虫症(特にタイでの感染) 囊虫症、肺吸虫症、住血吸虫症などである⁴⁾。

治療・予防

特効的な治療法はなく、治療の主体は対症療法である。プレドニゾロンを40～60mg/日投与し、数週間後に減量するのがよい⁷⁾。Tsai et al.⁸⁾はグルココルチコステロイドを併用したメベンダゾールの投与がよいとしている。脳圧降下のためには20%マニトールや10%グリセロールの投与、腰椎穿刺による髄液の排除を行う。

感染予防のためには、流行地で中間宿主や待機宿主を生食しないこと、また、野菜サラダなどにも注意が必要である。ナメクジの生食、あるいはヒキガエルの肝の生食を勧める民間療法を禁ずる。

文献

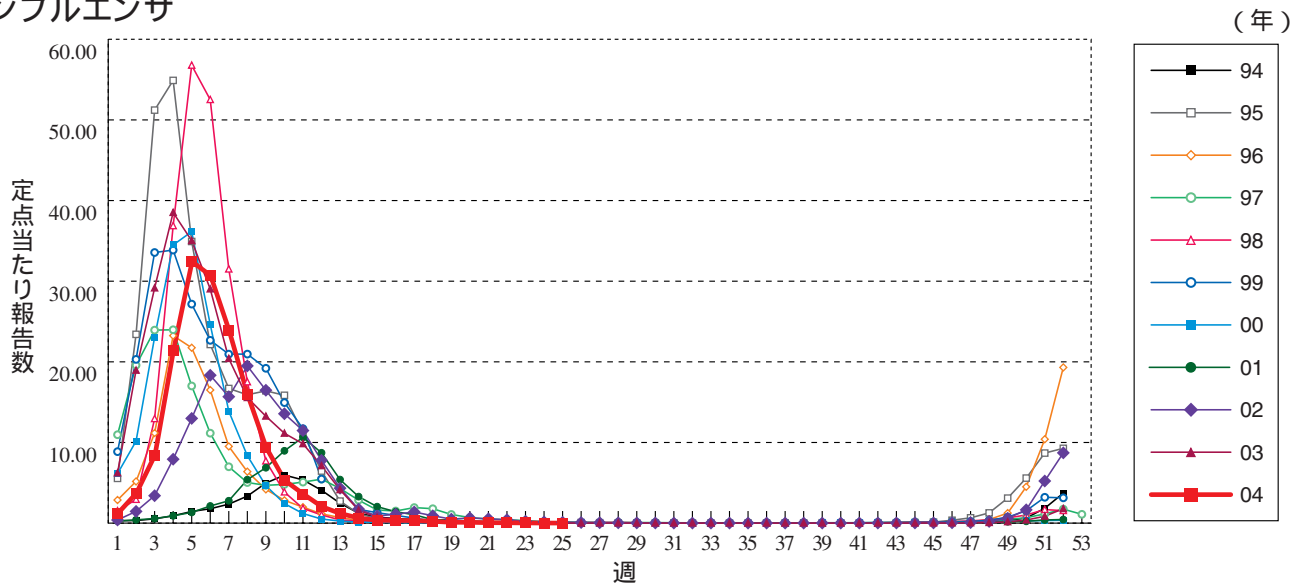
- 1) Kliks, M. M., and Palumbo, N. E. 1992. Soc. Sci. Med., 34, 199-212.
- 2) 当真 弘、佐藤良也. 2000. Clin. Parasitol., 11, 40-43.
- 3) 服部春生、加藤竹雄、長門雅子ほか. 2001. 日児誌、105, 719-721.
- 4) Yoshimura, K. 1998. Topley & Wilson 's Microbiology and Microbial Infections, 9th ed., Vol. 5. Parasitology,(Cox, F. E. G., Kreier, J. P. and Wakelin, D., eds), pp. 635-659, Arnold, London.
- 5) 安里龍二、平良勝也、久高潤ほか 2003. 広東住血線虫の疫学的調査(2) 沖縄県衛生環境研究所 平成14年度新興・再興感染症調査報告書 pp. 9-25.
- 6) Jindrak, K. 1968. Ann. Trop. Med. Parasitol., 62, 506-517.
- 7) Pien, F. D. and Pien, B. C. 1999. Int. J. Inf. Dis., 3, 161-163.
- 8) Tsai, H. C., Liu, Y. C., Kunin, C. M. et al. 2001. Am. J. Med., 111, 109-114.

(秋田大学名誉教授(医学部寄生虫学) 吉村堅太郎)

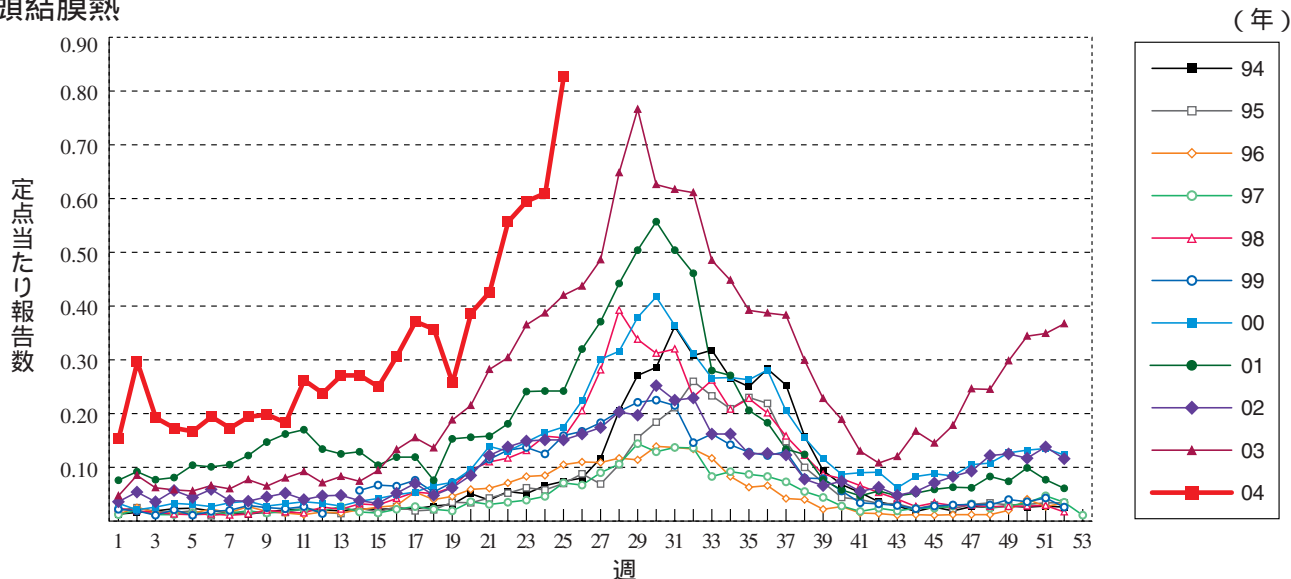


グラフ総覧(25週)

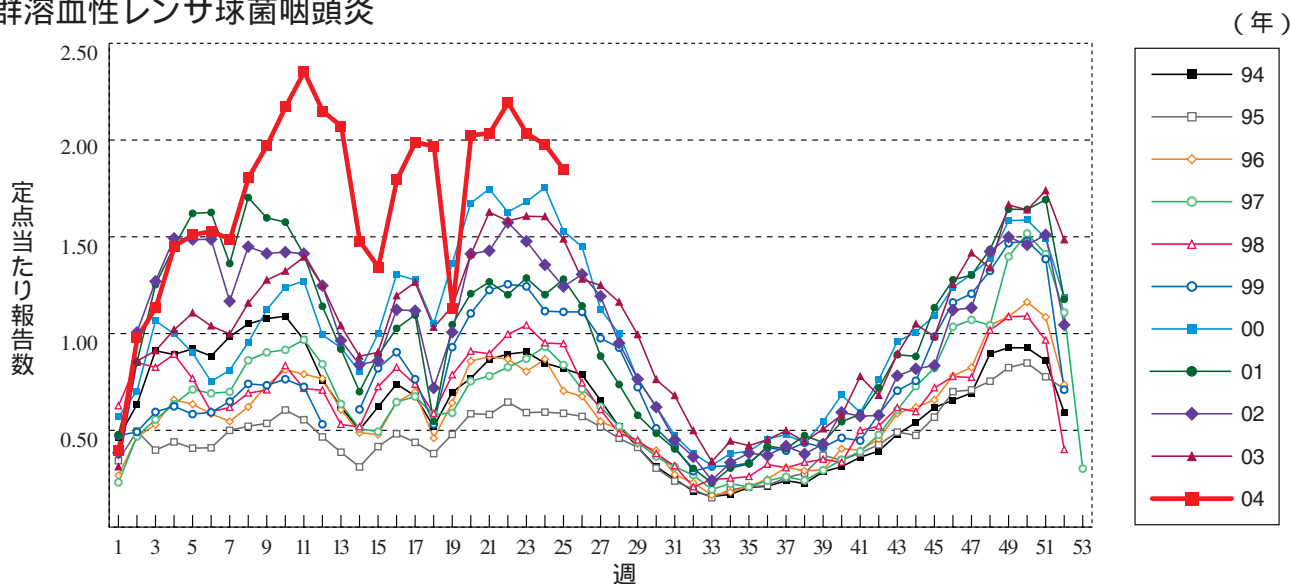
インフルエンザ



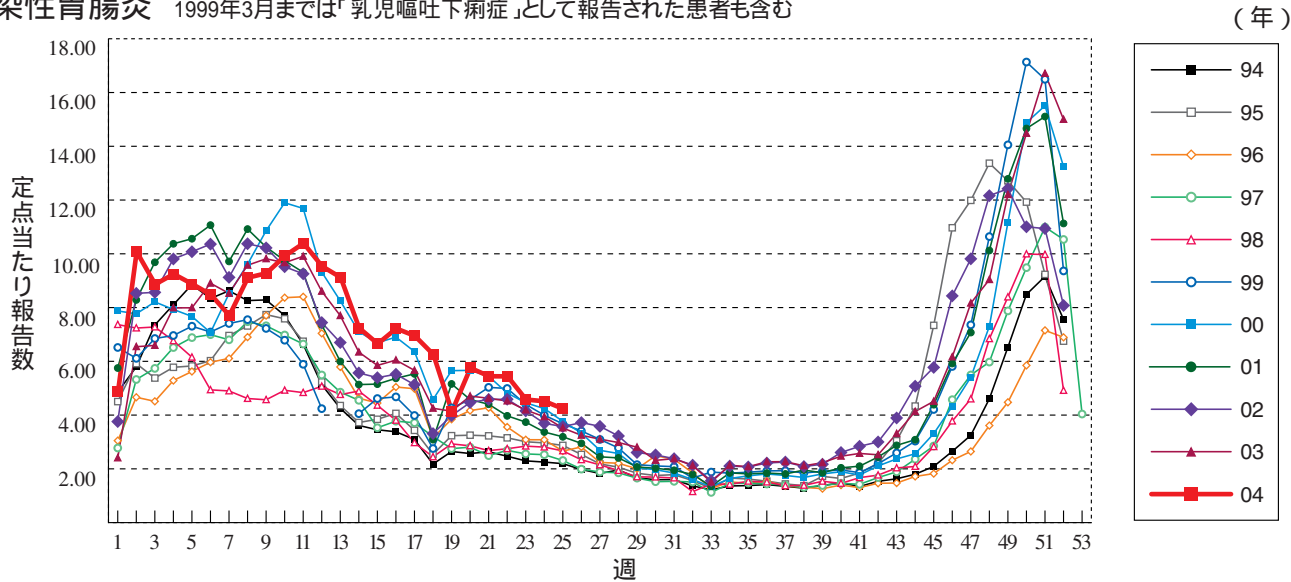
咽頭結膜熱



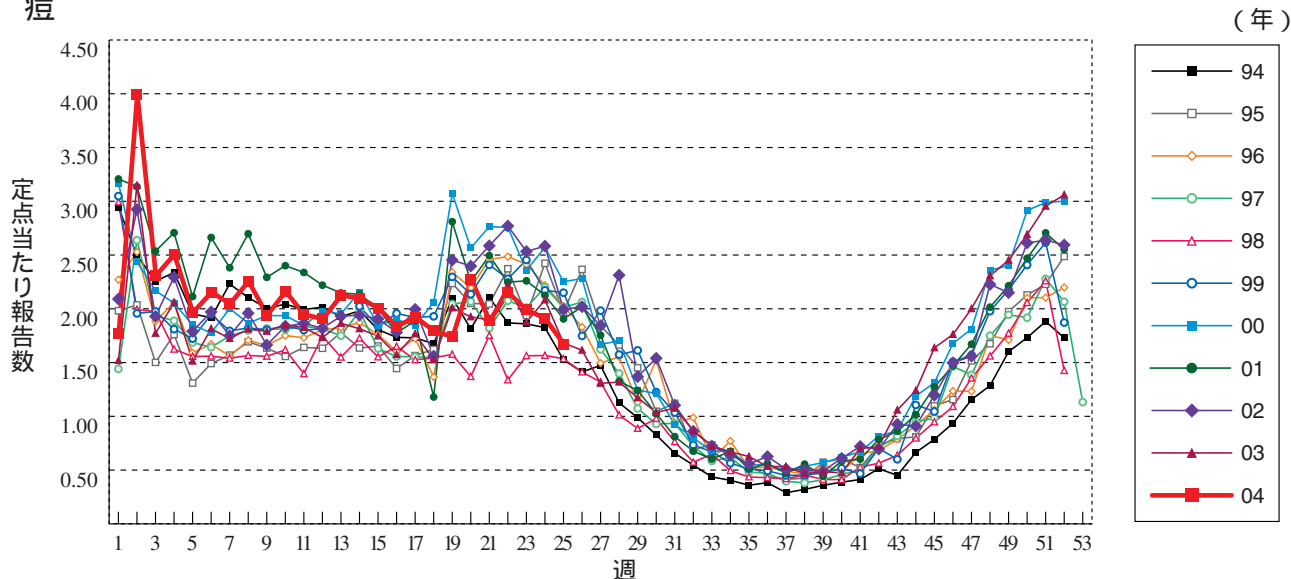
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



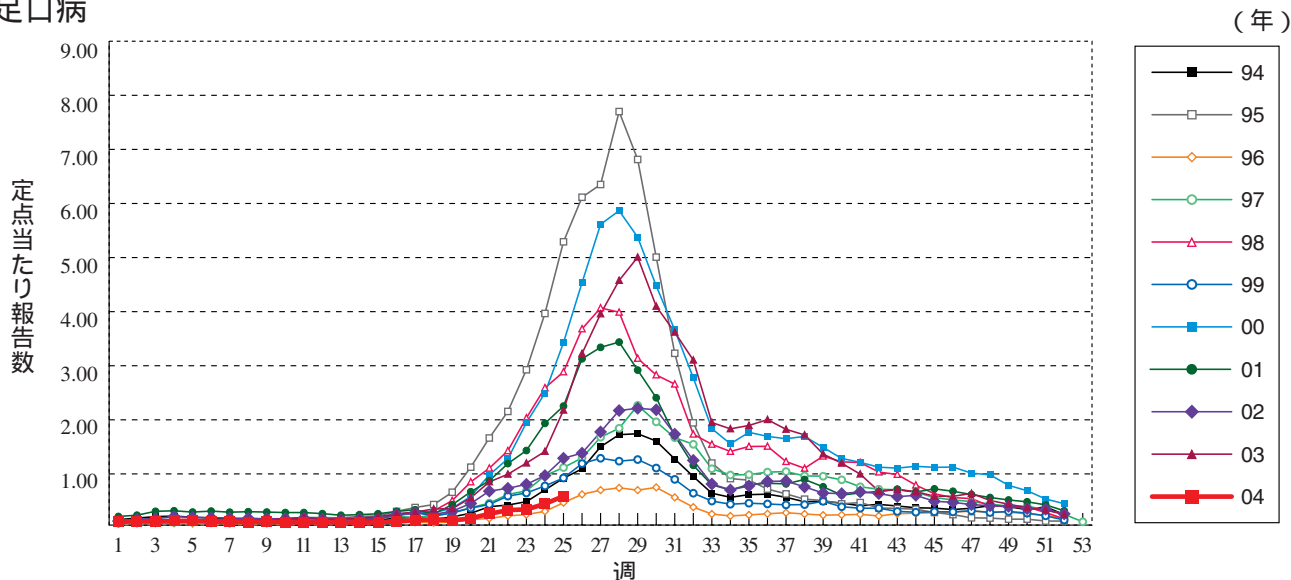
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



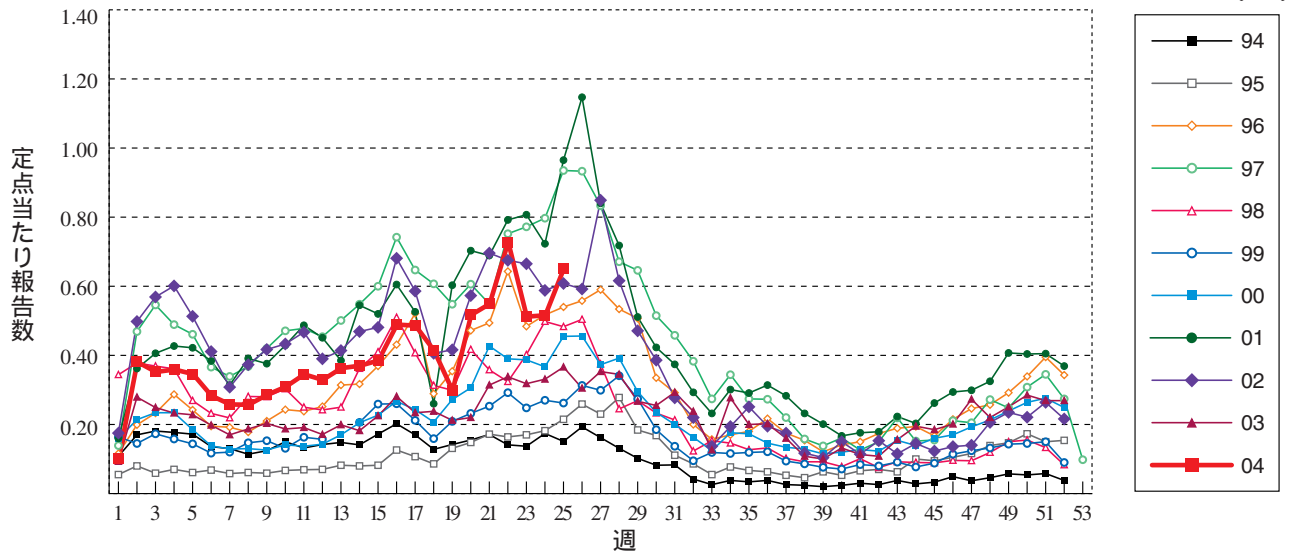
水痘



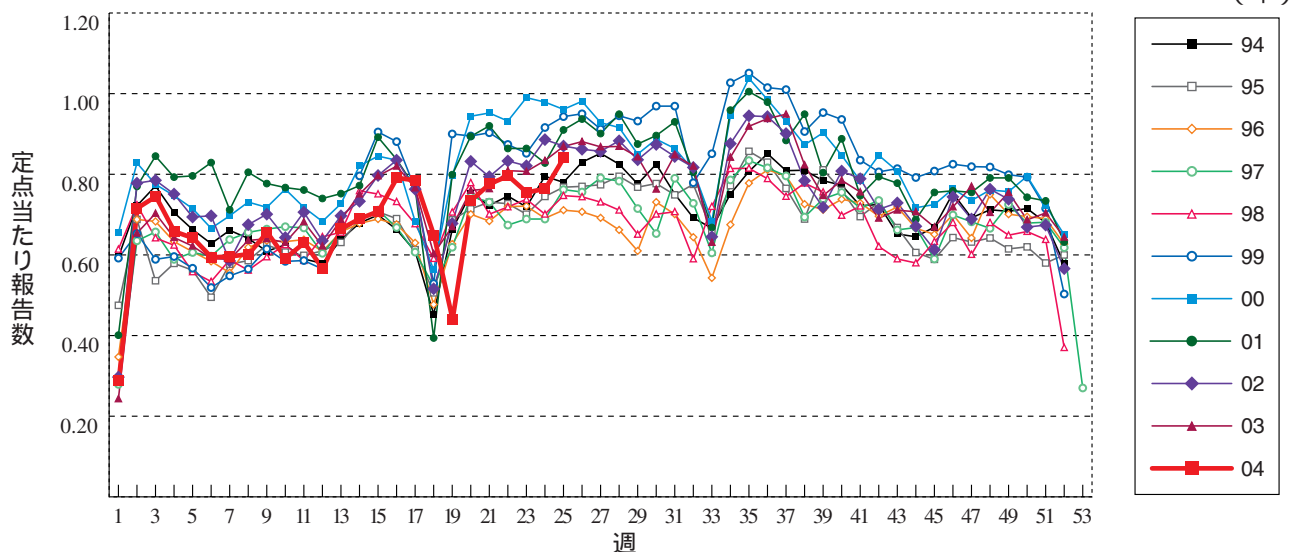
手足口病



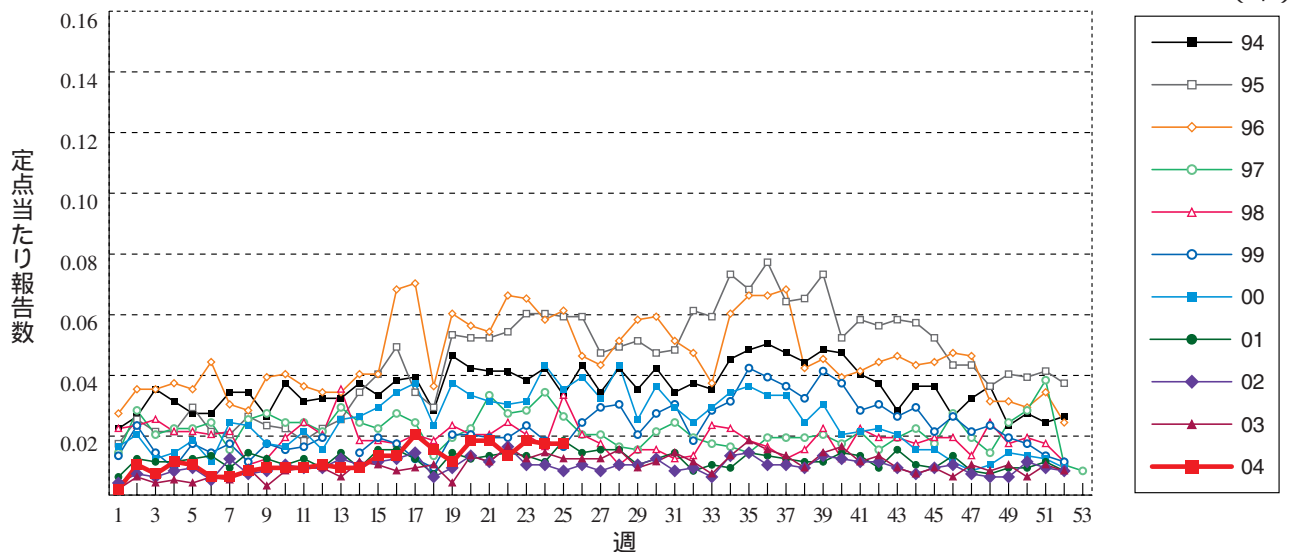
伝染性紅斑



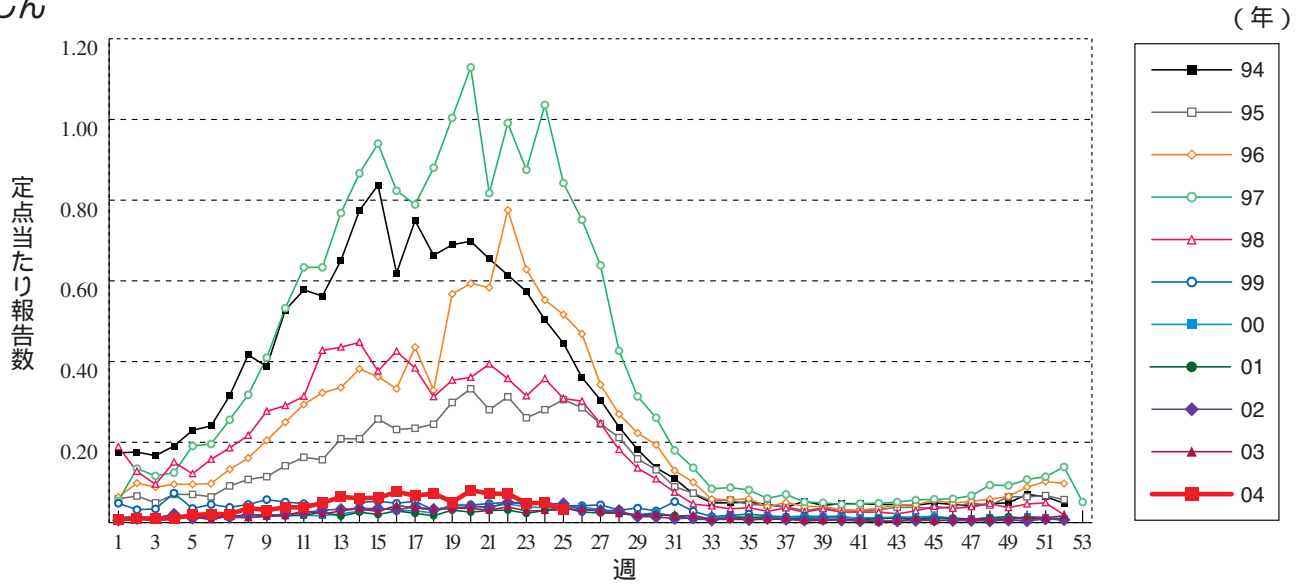
突発性発しん



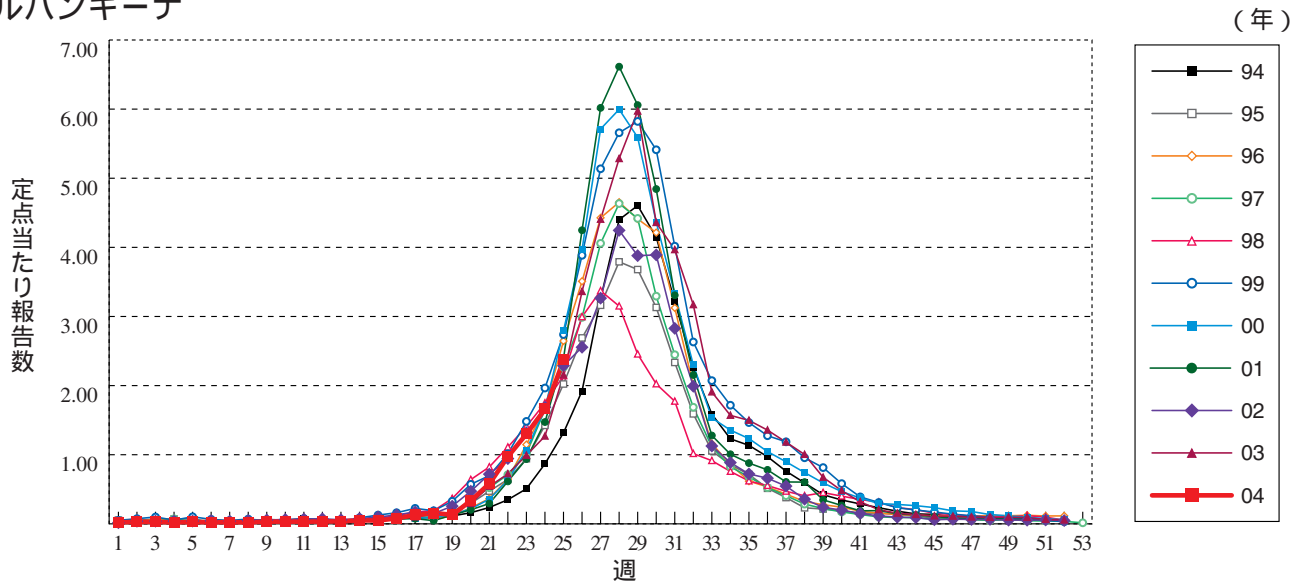
百日咳



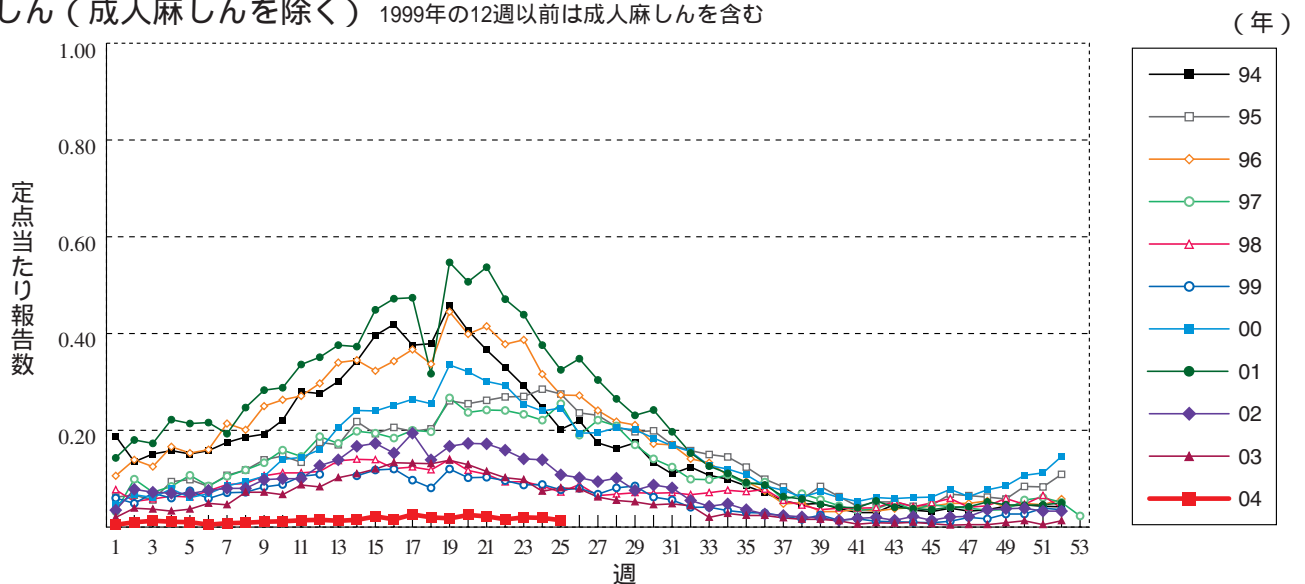
風しん



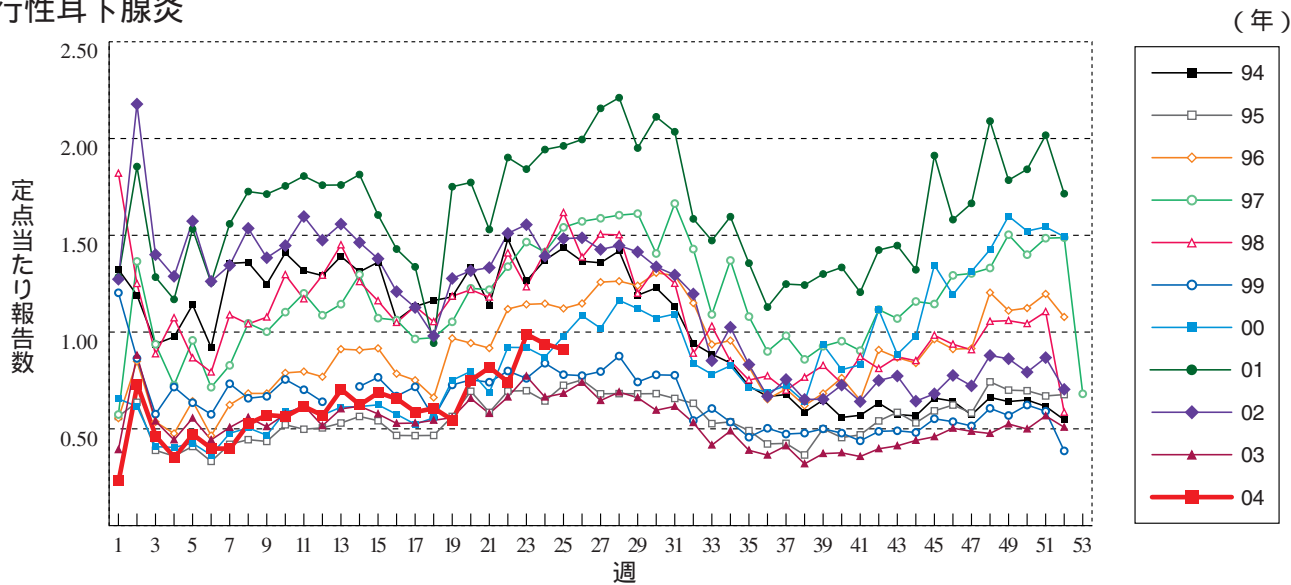
ヘルパンギーナ



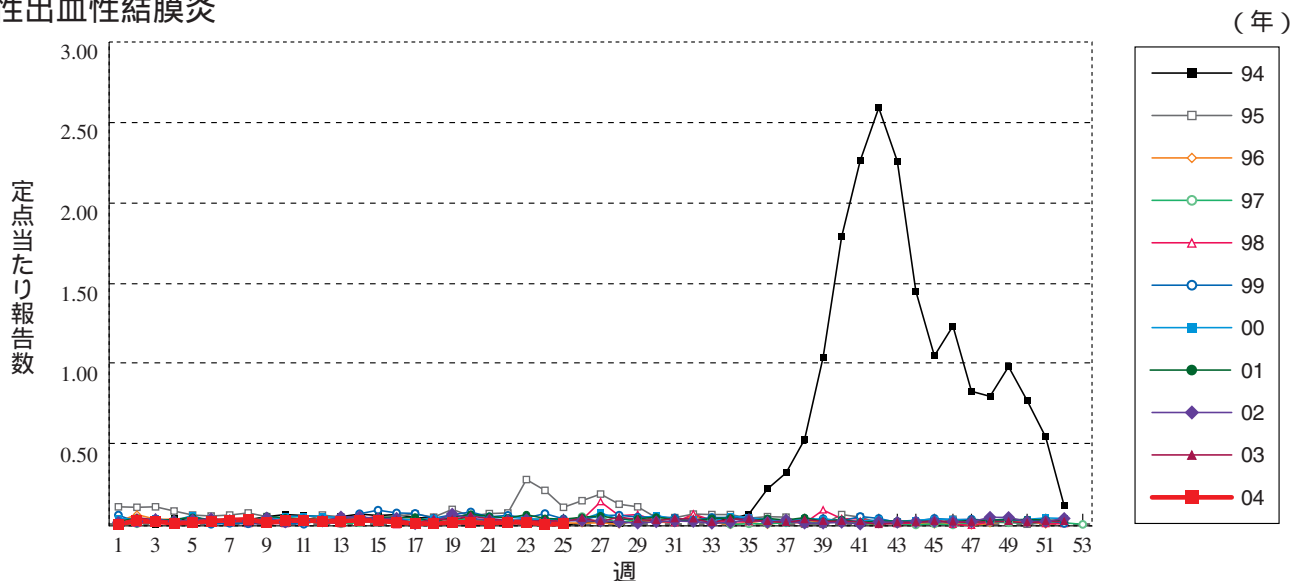
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



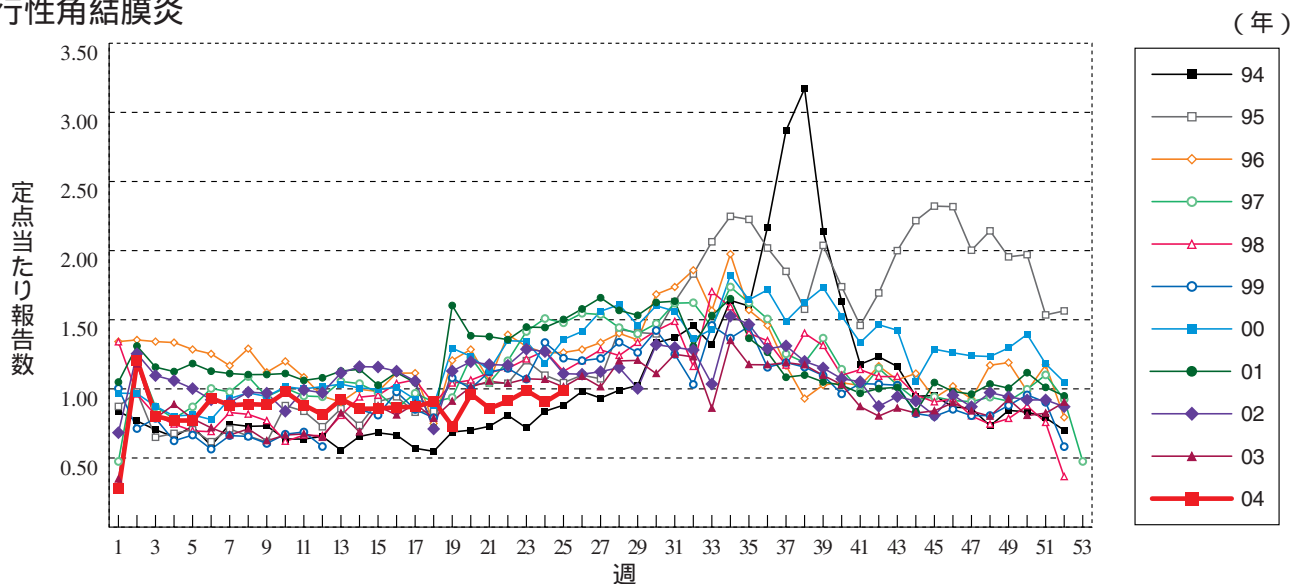
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

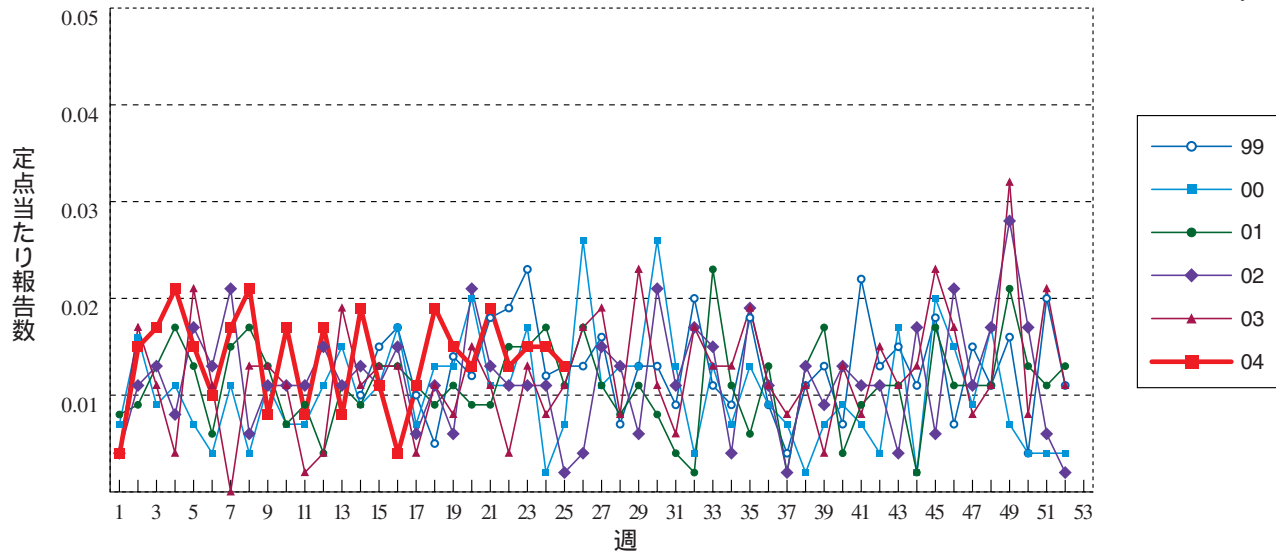


流行性角結膜炎



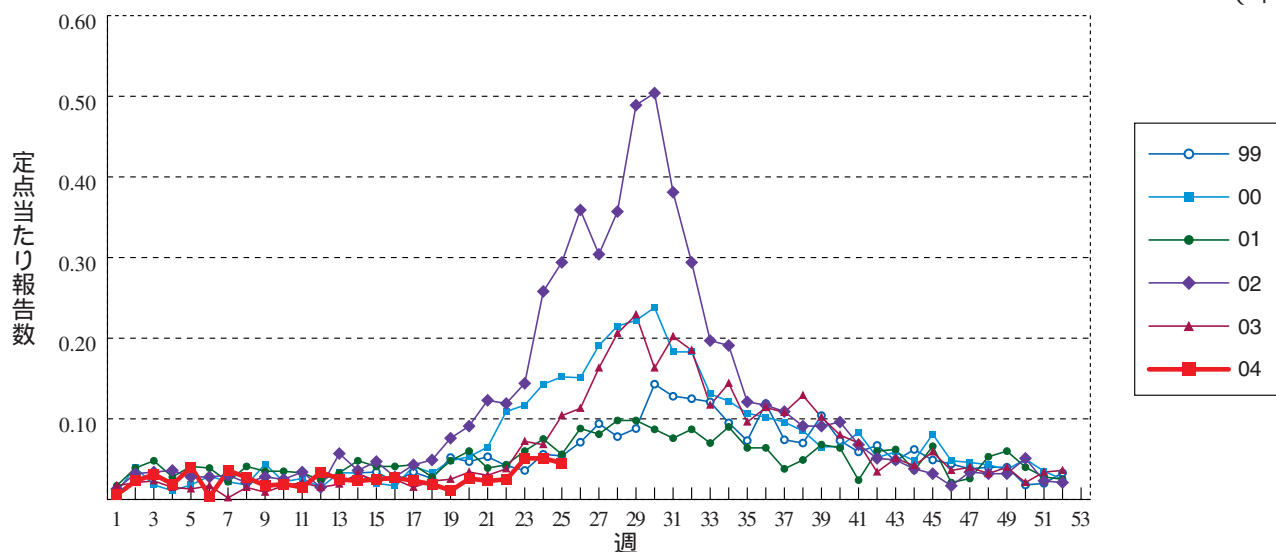
細菌性髄膜炎

(年)



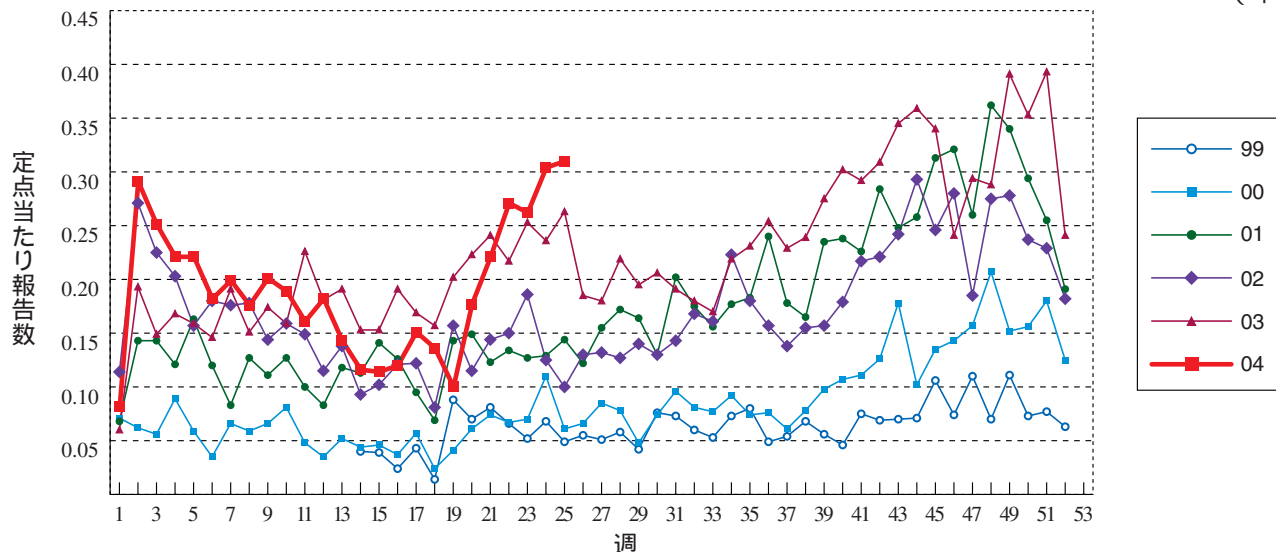
無菌性髄膜炎

(年)



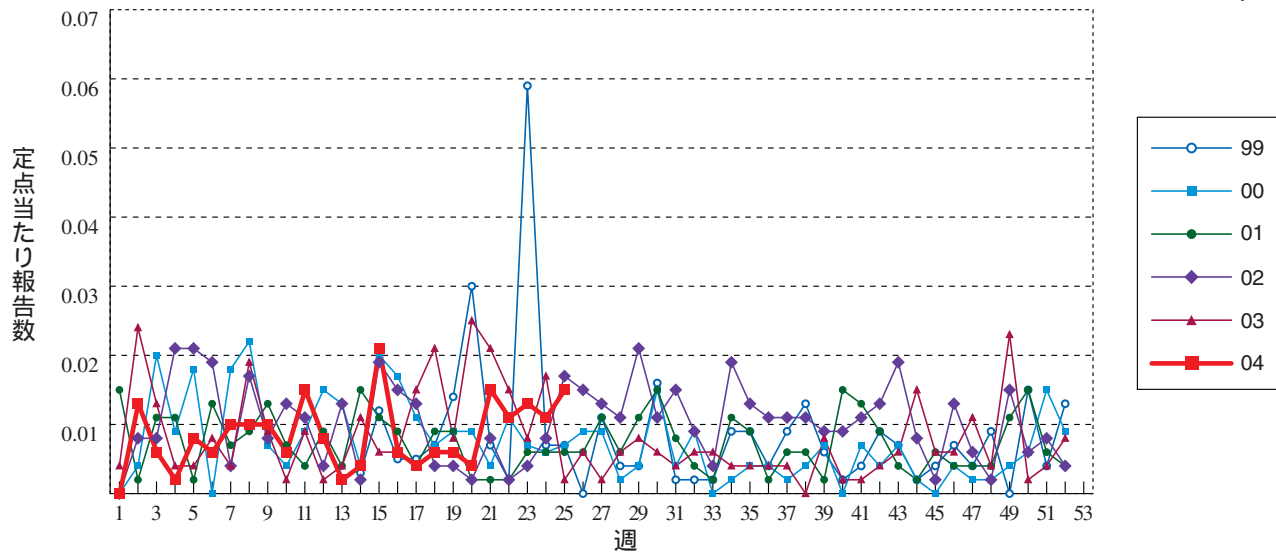
マイコプラズマ肺炎

(年)



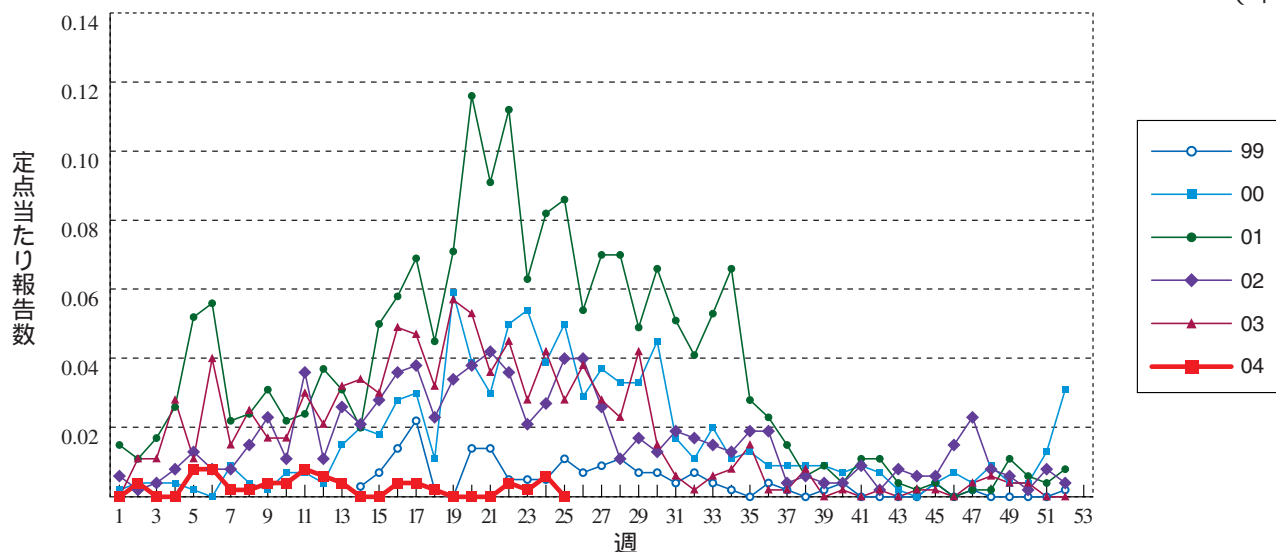
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





25週のデータ

注)表中の報告数は6月24日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成16年25週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	13	12	210	-	30	1	35
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	5	-	1	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9	-	1	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	12	-	3	-	5
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	1	62	-	8	-	7
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	2	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	3	-	2	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	4
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	21	-	3	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	1	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	8	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年25週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	73	733	11	271	-	17	-	-	-	27	-	-	5	140
北海道	-	-	-	-	-	7	-	5	-	17	-	-	-	1	-	-	-	5
青森県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	1	5	-	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	8	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	4	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	2	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	6	30	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	5	27	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	9	74	6	71	-	-	-	-	-	1	-	-	1	25
神奈川県	-	-	-	-	1	12	-	15	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8
新潟県	-	-	-	-	-	5	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	3	27	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
静岡県	-	-	-	-	-	6	-	13	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	2	32	-	23	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
三重県	-	-	-	-	1	21	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	2	11	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大阪府	-	-	-	-	6	50	1	28	-	-	-	-	-	5	-	-	-	16
兵庫県	-	-	-	-	2	44	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14
奈良県	-	-	-	-	6	24	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
鳥取県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	4	86	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
広島県	-	-	-	-	2	22	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	1	14	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
徳島県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	19	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	2	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	3	28	1	10	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	9	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	3	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
鹿児島県	-	-	-	-	4	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	2	19	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年25週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	4	-	-	-	5	2	75	1	34	10	471	-	1	1	34	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	17	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	4	-	17	-	-	1	2	-	-
東京都	1	1	-	-	-	5	-	6	-	5	8	191	-	-	-	10	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	29	-	1	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	2	-	11	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	29	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	-	52	-	-	-	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	6	1	1	-	8	-	-	-	3	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年25週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		炭疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	15	-	5	-	-	3	89	-	6	1	10	-	1	2	228	2	37
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1
青森県	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	6	-	2
東京都	-	3	-	3	-	-	-	5	-	4	-	-	-	-	-	31	-	1
神奈川県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	7	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	15	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33	-	2
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	-	6	-	1	-
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	9	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	5	-	1	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	1	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	10	-	2	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	10	-	-	-	1	-	-	3	-	1	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	1	1	-	-	3	-	3	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年25週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	2	3	56
北海道	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
秋田県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	1	5
神奈川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年25週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	12	-	-	1	84	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	3	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年25週

	野 兎 病		リッサウイルス感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	1	1	35	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日: 平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数、疾病・都道府県別

平成16年25週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	31	0.01	2521	0.83	5619	1.85	12881	4.23	5076	1.67	1648	0.54	1981	0.65	2560	0.84	52	0.02
北海道	10	0.04	141	0.99	298	2.08	337	2.36	372	2.60	59	0.41	37	0.26	69	0.48	1	0.01
青森県	-	-	15	0.36	53	1.26	82	1.95	75	1.79	2	0.05	9	0.21	23	0.55	-	-
岩手県	-	-	22	0.59	90	2.43	65	1.76	85	2.30	1	0.03	23	0.62	21	0.57	-	-
宮城県	1	0.01	39	0.66	159	2.69	309	5.24	130	2.20	3	0.05	57	0.97	80	1.36	-	-
秋田県	-	-	30	0.86	49	1.40	126	3.60	49	1.40	2	0.06	2	0.06	28	0.80	2	0.06
山形県	-	-	2	0.07	115	3.83	132	4.40	41	1.37	1	0.03	24	0.80	30	1.00	-	-
福島県	-	-	67	1.40	87	1.81	326	6.79	119	2.48	2	0.04	13	0.27	30	0.63	1	0.02
茨城県	1	0.01	74	1.00	182	2.46	237	3.20	100	1.35	19	0.26	22	0.30	34	0.46	-	-
栃木県	-	-	13	0.28	82	1.78	170	3.70	52	1.13	6	0.13	21	0.46	36	0.78	8	0.17
群馬県	-	-	71	1.15	101	1.63	228	3.68	106	1.71	6	0.10	139	2.24	49	0.79	-	-
埼玉県	-	-	215	1.34	474	2.94	776	4.82	191	1.19	82	0.51	237	1.47	156	0.97	2	0.01
千葉県	-	-	154	1.17	354	2.68	439	3.33	267	2.02	109	0.83	164	1.24	106	0.80	1	0.01
東京都	-	-	109	0.77	147	1.04	548	3.86	131	0.92	107	0.75	98	0.69	77	0.54	3	0.02
神奈川県	-	-	276	1.35	379	1.85	796	3.88	333	1.62	81	0.40	215	1.05	208	1.01	3	0.01
新潟県	-	-	89	1.48	222	3.70	228	3.80	138	2.30	4	0.07	100	1.67	55	0.92	1	0.02
富山県	-	-	61	2.10	82	2.83	180	6.21	74	2.55	3	0.10	24	0.83	23	0.79	-	-
石川県	-	-	46	1.59	36	1.24	144	4.97	52	1.79	24	0.83	32	1.10	21	0.72	-	-
福井県	-	-	31	1.41	40	1.82	200	9.09	75	3.41	18	0.82	12	0.55	29	1.32	1	0.05
山梨県	2	0.05	3	0.12	55	2.20	133	5.32	15	0.60	1	0.04	5	0.20	9	0.36	-	-
長野県	3	0.03	27	0.49	145	2.64	262	4.76	153	2.78	30	0.55	66	1.20	45	0.82	1	0.02
岐阜県	-	-	56	1.06	42	0.79	85	1.60	86	1.62	11	0.21	9	0.17	32	0.60	1	0.02
静岡県	-	-	55	0.64	120	1.40	429	4.99	132	1.53	45	0.52	46	0.53	93	1.08	-	-
愛知県	-	-	111	0.61	244	1.34	395	2.17	243	1.34	49	0.27	88	0.48	140	0.77	4	0.02
三重県	-	-	34	0.76	74	1.64	205	4.56	70	1.56	15	0.33	8	0.18	55	1.22	-	-
滋賀県	-	-	41	1.24	30	0.91	96	2.91	50	1.52	9	0.27	5	0.15	29	0.88	-	-
京都府	-	-	11	0.14	93	1.22	340	4.47	112	1.47	34	0.45	41	0.54	69	0.91	-	-
大阪府	5	0.02	77	0.39	269	1.38	834	4.28	268	1.37	49	0.25	79	0.41	156	0.80	7	0.04
兵庫県	-	-	78	0.61	162	1.27	692	5.41	201	1.57	331	2.59	68	0.53	103	0.80	2	0.02
奈良県	-	-	24	0.69	37	1.06	102	2.91	53	1.51	20	0.57	14	0.40	21	0.60	-	-
和歌山県	-	-	22	0.71	40	1.29	142	4.58	69	2.23	1	0.03	15	0.48	29	0.94	-	-
鳥取県	-	-	8	0.42	39	2.05	170	8.95	51	2.68	-	-	1	0.05	22	1.16	-	-
島根県	-	-	38	1.65	20	0.87	113	4.91	47	2.04	1	0.04	9	0.39	18	0.78	2	0.09
岡山県	-	-	27	0.50	60	1.11	223	4.13	86	1.59	19	0.35	31	0.57	42	0.78	-	-
広島県	-	-	68	0.91	100	1.33	390	5.20	94	1.25	7	0.09	42	0.56	53	0.71	2	0.03
山口県	3	0.04	33	0.67	71	1.45	310	6.33	100	2.04	18	0.37	3	0.06	52	1.06	-	-
徳島県	-	-	11	0.48	32	1.39	73	3.17	21	0.91	3	0.13	7	0.30	12	0.52	-	-
香川県	-	-	22	0.69	35	1.09	99	3.09	45	1.41	2	0.06	11	0.34	24	0.75	-	-
愛媛県	-	-	15	0.38	156	4.00	302	7.74	74	1.90	23	0.59	15	0.38	41	1.05	-	-
高知県	-	-	9	0.29	58	1.87	69	2.23	39	1.26	16	0.52	7	0.23	17	0.55	-	-
福岡県	-	-	92	0.77	308	2.57	738	6.15	210	1.75	204	1.70	65	0.54	136	1.13	6	0.05
佐賀県	-	-	18	0.78	27	1.17	45	1.96	47	2.04	35	1.52	-	-	42	1.83	-	-
長崎県	-	-	19	0.43	32	0.73	113	2.57	29	0.66	21	0.48	8	0.18	19	0.43	2	0.05
熊本県	-	-	26	0.53	111	2.27	269	5.49	55	1.12	14	0.29	10	0.20	53	1.08	-	-
大分県	-	-	22	0.61	73	2.03	306	8.50	75	2.08	52	1.44	55	1.53	49	1.36	-	-
宮崎県	-	-	66	1.83	102	2.83	296	8.22	108	3.00	5	0.14	32	0.89	61	1.69	-	-
鹿児島県	-	-	32	0.56	59	1.04	311	5.46	116	2.04	24	0.42	7	0.12	39	0.68	-	-
沖縄県	6	0.10	21	0.62	75	2.21	16	0.47	37	1.09	80	2.35	5	0.15	24	0.71	2	0.06

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成16年25週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	98	0.03	7230	2.38	44	0.01	2770	0.91	9	0.01	627	0.99	6	0.01	21	0.04	146	0.31
北海道	2	0.01	25	0.17	-	-	97	0.68	1	0.03	25	0.86	-	-	-	-	6	0.26
青森県	-	-	35	0.83	-	-	30	0.71	-	-	2	0.18	-	-	-	-	4	0.67
岩手県	-	-	29	0.78	-	-	19	0.51	-	-	19	1.58	-	-	-	-	5	0.25
宮城県	-	-	50	0.85	1	0.02	39	0.66	-	-	5	0.45	-	-	-	-	9	0.75
秋田県	-	-	20	0.57	-	-	4	0.11	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.71
山形県	-	-	27	0.90	-	-	36	1.20	-	-	6	0.75	-	-	-	-	10	1.00
福島県	2	0.04	42	0.88	2	0.04	30	0.63	-	-	26	2.17	-	-	-	-	11	1.57
茨城県	2	0.03	52	0.70	4	0.05	26	0.35	-	-	29	1.81	-	-	-	-	15	1.36
栃木県	4	0.09	151	3.28	1	0.02	6	0.13	-	-	19	1.58	-	-	1	0.14	1	0.14
群馬県	10	0.16	44	0.71	2	0.03	67	1.08	-	-	21	1.50	-	-	-	-	2	0.20
埼玉県	14	0.09	199	1.24	2	0.01	253	1.57	-	-	58	1.57	-	-	-	-	-	-
千葉県	6	0.05	279	2.11	-	-	171	1.30	1	0.03	17	0.53	-	-	-	-	-	-
東京都	5	0.04	289	2.04	9	0.06	50	0.35	-	-	10	0.71	-	-	-	-	7	0.28
神奈川県	11	0.05	226	1.10	2	0.01	197	0.96	3	0.07	51	1.21	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	23	0.38	-	-	51	0.85	-	-	4	0.44	-	-	2	0.15	10	0.77
富山県	2	0.07	50	1.72	-	-	32	1.10	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.40
石川県	-	-	47	1.62	-	-	12	0.41	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.05	142	6.45	-	-	41	1.86	-	-	-	-	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	-	-	10	0.40	-	-	4	0.16	-	-	2	0.67	-	-	1	0.10	1	0.10
長野県	1	0.02	56	1.02	-	-	42	0.76	-	-	4	0.36	-	-	-	-	6	0.55
岐阜県	2	0.04	205	3.87	-	-	67	1.26	1	0.08	7	0.58	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	365	4.24	-	-	115	1.34	-	-	16	0.80	-	-	-	-	6	0.60
愛知県	-	-	920	5.05	2	0.01	229	1.26	-	-	26	0.74	2	0.15	-	-	9	0.69
三重県	-	-	303	6.73	1	0.02	21	0.47	-	-	1	0.08	-	-	-	-	3	0.33
滋賀県	-	-	74	2.24	1	0.03	26	0.79	-	-	3	0.43	-	-	1	0.14	1	0.14
京都府	7	0.09	146	1.92	1	0.01	52	0.68	-	-	7	0.39	-	-	1	0.17	-	-
大阪府	6	0.03	598	3.07	4	0.02	199	1.02	1	0.02	14	0.29	-	-	-	-	3	0.20
兵庫県	2	0.02	472	3.69	4	0.03	137	1.07	-	-	44	1.26	-	-	-	-	1	0.08
奈良県	-	-	166	4.74	1	0.03	24	0.69	-	-	9	1.00	-	-	1	0.17	1	0.17
和歌山県	-	-	55	1.77	1	0.03	39	1.26	-	-	1	0.25	-	-	-	-	5	0.45
鳥取県	-	-	64	3.37	-	-	9	0.47	-	-	3	1.00	-	-	4	0.80	-	-
島根県	-	-	52	2.26	-	-	27	1.17	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.13
岡山県	-	-	125	2.31	1	0.02	44	0.81	-	-	11	0.92	-	-	-	-	6	1.20
広島県	-	-	182	2.43	-	-	54	0.72	-	-	11	0.55	1	0.05	2	0.11	3	0.16
山口県	-	-	146	2.98	-	-	92	1.88	-	-	2	0.22	-	-	-	-	4	0.44
徳島県	-	-	115	5.00	5	0.22	5	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	180	5.63	-	-	20	0.63	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	239	6.13	-	-	41	1.05	1	0.14	11	1.57	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	32	1.03	-	-	15	0.48	-	-	4	1.33	1	0.11	-	-	1	0.11
福岡県	9	0.08	446	3.72	-	-	184	1.53	-	-	19	0.73	-	-	4	0.27	-	-
佐賀県	1	0.04	35	1.52	-	-	83	3.61	-	-	1	0.25	-	-	-	-	4	0.67
長崎県	-	-	37	0.84	-	-	4	0.09	-	-	5	0.63	-	-	1	0.08	-	-
熊本県	-	-	187	3.82	-	-	17	0.35	-	-	12	1.33	1	0.07	1	0.07	2	0.13
大分県	3	0.08	115	3.19	-	-	24	0.67	-	-	3	0.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	118	3.28	-	-	17	0.47	-	-	7	1.75	-	-	2	0.29	-	-
鹿児島県	4	0.07	50	0.88	-	-	10	0.18	-	-	5	0.71	-	-	-	-	1	0.08
沖縄県	3	0.09	7	0.21	-	-	8	0.24	1	0.10	104	10.40	-	-	-	-	1	0.14

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成16年25週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	7	0.01	-	-	17
北海道	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	...
宮城県	2	0.17	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-
福島県	1	0.14	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	...
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	...
埼玉県	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	6
神奈川県	-	-	-	-	6
新潟県	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	...
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	2	0.20	-	-	...
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	...
愛知県	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	...
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	...
兵庫県	-	-	-	-	...
奈良県	-	-	-	-	...
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	...
広島県	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	...
香川県	-	-	-	-	...
愛媛県	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	...
福岡県	2	0.13	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	...
熊本県	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	...
宮崎県	-	-	-	-	...
鹿児島県	-	-	-	-	...
沖縄県	-	-	-	-	...

定点把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県(...)が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

感染症週報 第6巻 第25号 平成16年7月2日発行
発 行: 国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局: 国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

< 国立感染症研究所 感染症情報センター >

<http://www.mhlw.go.jp/>

< 厚生労働省 >

<http://www.forth.go.jp/>

< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。